

さまざまに姿を変えるモノから  
生活の知恵や日本とのつながりを発見



# MoNo 変身図鑑

第35回

## サフラン



赤く長いめしべを乾燥させたものがサフランとなる。天然の染料として、かつては絵の具にも用いられていた  
©世界文化フォト



花からめしべのみを手作業で摘み取り、すぐに乾燥させる。  
乾燥させたサフランにそのままお湯を注げば、お茶として飲むこともできる



「サフラン」と聞いて何を思い浮かべるだろうか？おそらく、黄色が鮮やかなサフランライスという人が多いのではないだろうか。  
実はサフランは世界で最も高価なスパイス。着色料以外にもさまざまな分野で重宝されている。

古代の人々が愛した色と香り

サフランは觀賞用に栽培されている球根植物のクロッカスの仲間、「サフラン」という言葉は本来、赤くて長いめしべを指す。ヨーロッパの地中海沿岸から現在のトルコが原産地とされ、紀元前の時代からさまざまな用途に利用されてきた。

代表的な用途は薬用、香料、染料だ。サフランは鎮静、鎮痛、不眠、ストレスなどさまざまな病気に効くとされた。また、その強い香りから古代ギリシャやローマでは香水として重宝され、古代エジプトの女王クレオパトラもサフランの香料を用いていたという。輝くような黄色を出す染料は、古代インドでは僧侶の衣の染色に使われていた。

ギリシャ神話には、ニンフに恋い焦がれて死んだ青年の化身、あるいはプロメテウスの血から生まれた花など、サフランにまつわるいくつもの物語があるが、このことから古代においてサフランが人々に大切にされていたことがわかる。

ヨーロッパにもたらされると、貴族の衣服の染色料として、また料理にも利用されるようになった。イギリスではサフランで髪を染めることが流行し、入手困難になることを懸念した国王によって染髪の禁止令が出されたという逸話もある。

1グラム数千円、最も高価な香料

サフランが世界一高価なスパイスだといわれているのは、わずかな量のめしべを採取するために膨大な量の花を収穫しなければならないからだ。さらに、めしべを摘み取り乾燥させるまでの作業も手間がかかる。最高級のものだと1グラム当たり数千円することも珍しくないといふから、その価値は金に値するほどだ。

サフランを生産している主な国は、最大の生産国であるイランをはじめ、スペイン、ギリシャ、トルコなど。また、日本に輸入されているサフランは、イラン、スペイン、中国産が主となっている。

現在のサフランの利用法で一般的なものは、料理の着色や香り付け。サフランライスをはじめ、スペインのプイペースにサフランは欠かせない。

### 薬品 Medicines

生薬



冷え性、血行不良、生理不順に効くとして、漢方・和漢方のせんじ薬に配合されている



### 食べ物 Foods

加工食品

サフランを配合した健康食品も商品化。サフランに滋養強壮、体力回復的作用があるという



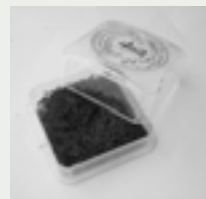
### 染料 Dyestuffs

サフランの染料は100グラムを取るのに1万5,000本もの花が必要といわれる。着物の染色にも用いられている



### サフランの栽培はイランが起源

サフランの世界最大の生産国はイラン。イランは世界で初めてサフランの栽培が行われたところで、現在、世界各地で栽培されているサフランの多くがイランから広がった。ちなみに、サフランをヨーロッパにもたらしたのは、中世にスペインを征服したイスラム教徒といわれている。イランのサフランは化学肥料を使わないことでも有名で、国際市場での評価は高い。日本との取引も盛んだ。日本にはスペイン産に次いでイラン産のサフランが多く輸入されている。遠く思える国だが、実はこんなところにもつながりがある。



イランのお隣パルサーンもサフランの栽培が盛ん。市場では容器入りのサフランが数百円で売られている

### 雑貨 Miscellaneous goods

香料

古代から愛されてきたサフランの香り。現在も香水や化粧品に利用されている

コスメ

サフランから微量に取れるサフラン油を配合した化粧品には、ファンデーションや美容液などがある

入浴剤 & せっけん

サフランのスパイシーな香りを生かした入浴剤とせっけん。サフランには安眠促進と血行促進的作用がある

